

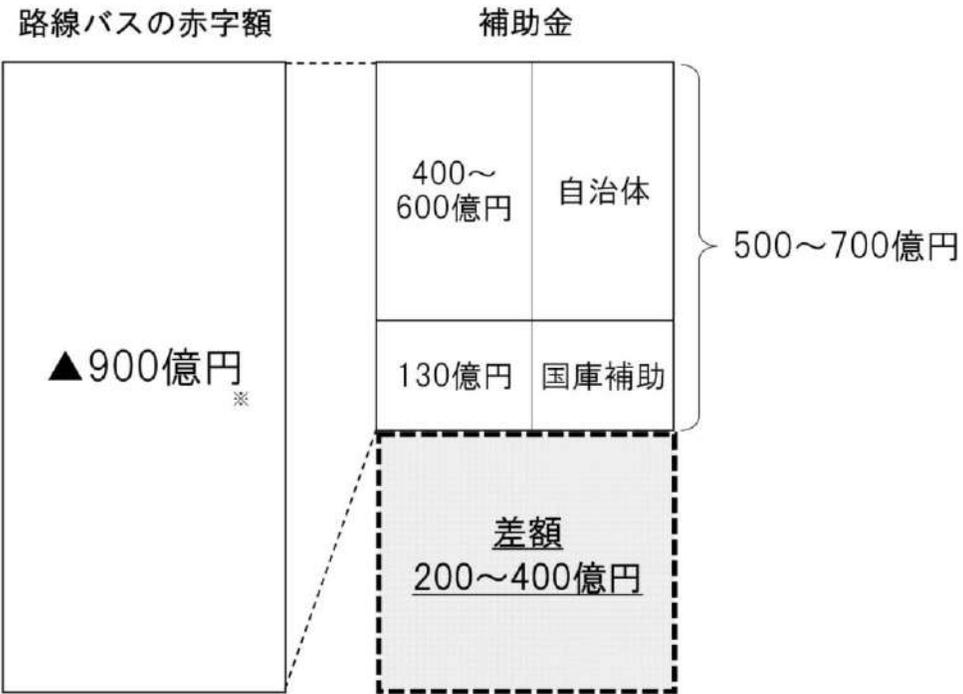
バス事業の課題

2023年8月

(株)伊予鉄グループ社長 (日本バス協会会長)

清水 一郎

路線バス補助制度の課題



※ 令和元年度の路線バス事業者（30両以上）のデータ*を用いて、事業全体を推計

*日本バス協会による集計

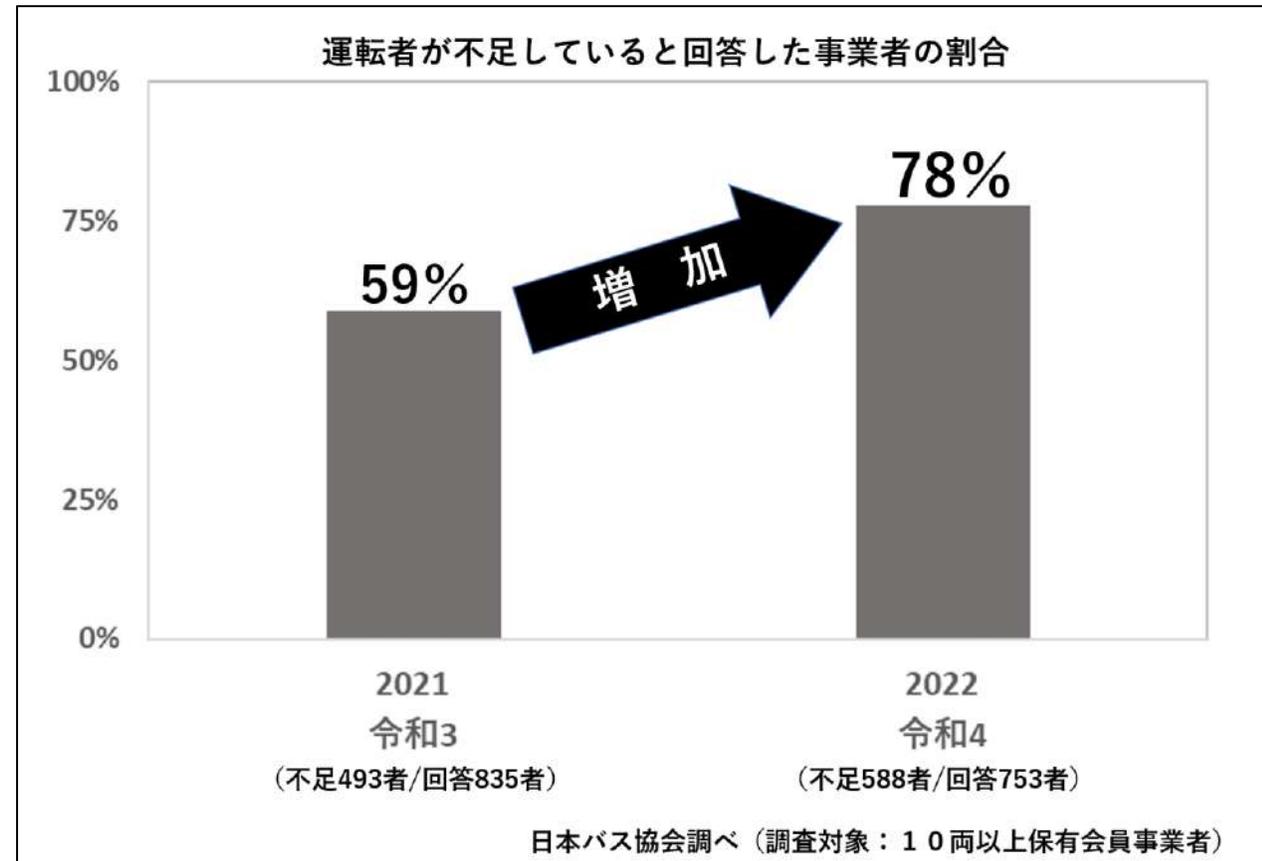
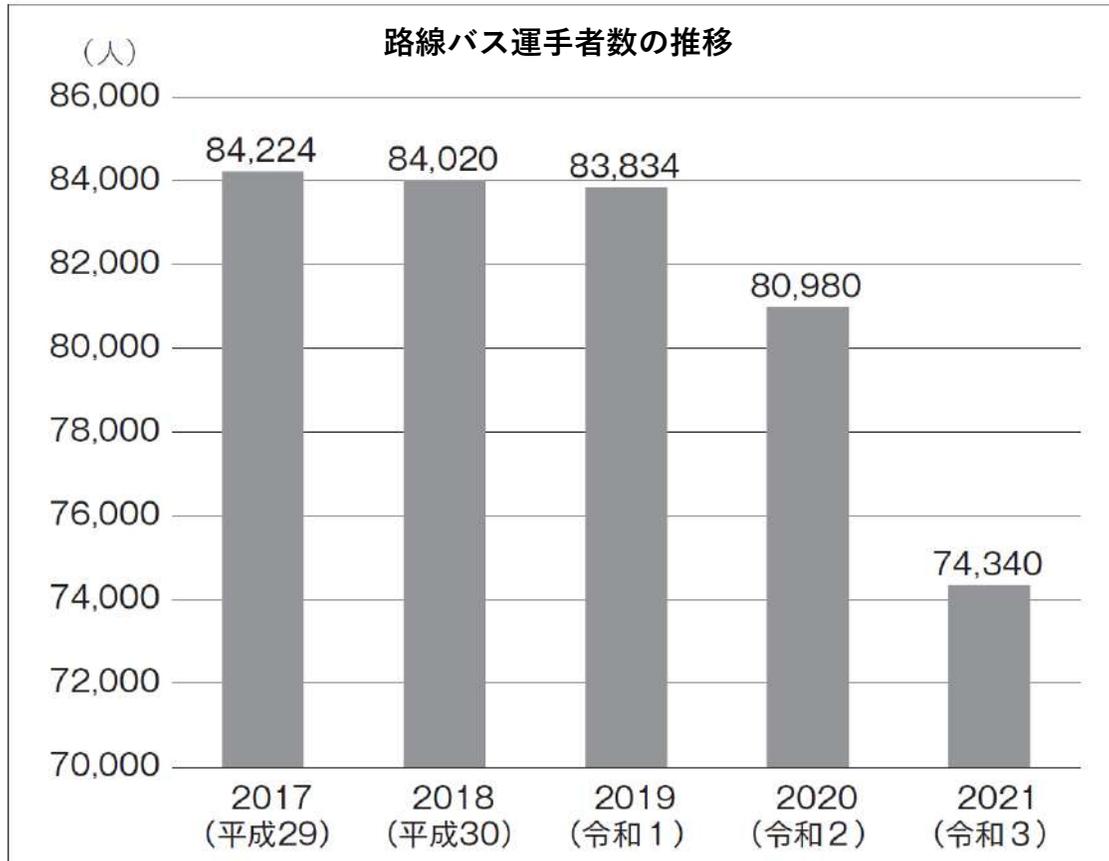
〈ブロック平均単価では実勢コストとの乖離が大きい〉



〈課題〉

路線の赤字額と補助額に大きなギャップが生じている。
補助額は、ブロック平均でなく、実勢コストで算定すべき。

人手不足



〈課題〉

人手不足の解決には、運賃改定を柔軟にし、賃上げにつなげる必要がある。
外国人バス運転士を認める制度改正も不可欠。

EVバスの導入促進

(株)EVモーターズ・ジャパン製
大型路線バスにおいては、国内企業が開発・
製造を行うEVバスとして、全国初の導入

- ・優れた静音性で電車のような乗り心地
- ・ボディは強化炭素繊維で頑丈
- ・軽量化による高い省エネ性能
- ・CO2削減
- ・災害時にも有効



2023年1月EVバス出発式（愛媛県松山市）

日本バス協会
2030年までにEVバスの
1万台導入を目標



〈課題〉

今年度、EVバスの補助金として、100億円
この増額が必要

キャッシュレス社会の実現に向けて

〈課題〉

- ・ 運賃箱・券売機などへの投資やメンテナンス
- ・ 運転士や従業員にとって現金を扱うことの負担
- ・ 小銭を銀行で両替するだけで手数料がかかる
- ・ 新紙幣が出るたびに大きな設備投資

➡ 事業者に大きな負担

- ・ 2025年万博の会場は、キャッシュレス決済が本格導入されるとの発表があり、前年には新紙幣も発行される予定。
- ・ 公共交通のキャッシュレス化を一気に進めるチャンスであり、国を挙げて、目標年次を決めて進めるべき。

公共交通を優先する社会に

〈課題〉

バスや路面電車が走行していて、急にマイカーが割り込んでくるケースが多い。海外では、公共交通が優先するという考え方が、もっと浸透している。ヒヤリハットの動画を公開することで啓発が必要。警察と連携し取り締まり強化を。



伊予鉄公式YouTube